



河小だより

四日市市立河原田小学校
学校通信 第14号
令和6年12月23日(月)
文責 校長 福井 宣行



季節の流^{なが}れは早い^{はや}もので、本日^{ほんじつ}で2学期^{がっき}が終了^{しゅうりょう}します。

行事^{ぎょうじ}等多^{おほ}い中^{なか}で、保護者^{ほごしゃ}の皆様^{みなさま}には、学校^{がっこう}運営^{うんえい}にご理解^{りかい}ご協力^{きょうりょく}をいただき、何とか^{なんぶじ}無事^{むじ}に2学期^{がっき}を終^おえることができました。本当^{ほんとう}にありがたうござい^{ます}ます。3学期^{がっき}も引き続^ひきよろしくお願^{ねが}いします。

さて、2学期^{がっき}の始業式^{しぎょうしき}では子ども^こたち、「ウェルビーイング(良好^よい状態^{じょうたい})な生活^{せいかつ}に」という話^{はなし}をしましたが、それぞれ^{それぞれ}どうだった^{どう}でしょう? 「どんな話^{はなし}だった? 」という声^{こえ}も聞^きこえてきそうなので、確認^{かくにん}しますと、

「良好^よい状態^{じょうたい}」にしていくために5つ^ごのことを心^{こころ}がけま^{しょう}。①うれい^{しい}、楽^{たの}しいなどよい気持^{きもち}をもつ、②何^{なに}かに集中^{しゅうちゅう}する時間^{じかん}を作る、③人^{じん}や友^{とも}達のつな^{だち}がり^なりを増^ふやす、太^{ふと}くする、④学^が校^{こう}や家^か族^{ぞく}など^なのため^にに自^じ分の^{ぶん}で可^かることをする、考^{かんが}える、⑤何^{なに}かを達^{たっ}成^{せい}するた^めに頑^{がん}張^{ばう}る。

という話^{はなし}です。これ^{これ}からも大^{たい}切^{せつ}にしてほ^{しい}い内^{ない}容^{よう}です。引^ひき続^{つづ}き 2025年^{ねん}もウェルビーイング^{せいかつ}な生^{せい}活^{かつ}をおく^{れる}よう期^き待^{たい}して^{いま}す。

長^{ちやう}期^きの休^{やす}み前^{まえ}には、子^こども^{ども}たち^{たち}には必^{かな}ず「自^じ分^{ぶん}の命^{いのち}は自^じ分^{ぶん}で守^{まも}る」「元^{げん}気^きな姿^{すがた}でまた会^あい^まし^まう」と話^{はなし}をして^{いま}す。安^{あん}全^{ぜん}・健^{けん}康^{こう}には十^{じゅう}分^{ぶん}留^{りゅう}意^いして、良^よいお年^{とし}をお迎^{むか}え^くだ^{さい}。

一年の計は元旦にあり

最近^{さいきん}はことわ^ぎもあ^まり聞^きいたこ^とがな^い子^こども^{ども}が^{おほ}く^なつて^ききたと聞^きま^す。し^かし、目^めま^{ぐる}しく^かわ^る世^よの中^{なか}にお^いても、こ^とわ^ぎには学^まん^でほ^{しい}内^{ない}容^{よう}が^たく^さんあ^りま^す。こ^のこ^とわ^ぎは、「充^{じゅう}実^{じつ}した一^{ひと}年^{ねん}を送^{おく}るた^めには一^{ひと}年^{ねん}の初^{はじ}めに^{きちん}と目^{もく}標^{ひょう}や計^{けい}画^{かく}を立^たてて努^{どり}力^{りょく}するこ^とが^{だい}じ^だという^い意^い味^みです。そ^の由^ゆ来^{らい}につ^いても少^{すこ}し触^ふれて^みま^す。

諸^{しよ}説^{せつ}あ^りま^すが、有^{ゆう}力^{りょく}とさ^れて^いる一^{ひと}つ^が、中^{ちゅう}国^{ごく}の明^{みん}時^じ代^{だい}に^{ひょう}憑^{おう}京^{きやう}と^いう学^{がく}者^{しゃ}によ^つつて著^あら^わさ^れた書^{しょ}物^{ぶつ}「月^{げつ}令^{りやう}広^{げつ}義^ぎ」です。「月^{げつ}令^{りやう}広^{げつ}義^ぎ」は中^{ちゅう}国^{ごく}の伝^{でん}統^{とう}的^{てき}な年^{ねん}中^{じゅう}行^{ぎやう}事^じやし^きた^りが解^{かい}説^{せつ}さ^れて^いるも^ので、そ^のな^かに「一^{いち}日^{じつ}の計^{けい}は^あした^あさ^いに^あり、一^{いち}年^{ねん}の計^{けい}は^あした^あさ^いに^あり」と^いう一^{いっ}文^{ぶん}が記^き載^{ざい}さ^れて^いま^す。晨^{あした}は朝^{あさ}のこ^とを指^さし、春^{はる}は正^{しょう}月^{がつ}を意^い味^みし^てい^て、全^{ぜん}体^{たい}では、一^{いち}日^{じつ}の初^{はじ}め^めである朝^{あさ}や一^{いち}年^{ねん}の初^{はじ}め^めである正^{しょう}月^{がつ}に^こそ計^{けい}画^{かく}を立^たてる^べき^であ^る、と^いう戒^いめ^めです。さ^らに、そ^のあ^とには、「一^{いっ}生^{しょう}の計^{けい}は^{つと}め^めに^あり、一^{いっ}家^かの計^{けい}は^みに^あり」と^いう言^{こと}葉^はが^{つづ}き^ます。全^{ぜん}体^{たい}では初^{しやう}頭^{とう}に計^{けい}画^{かく}を立^たてる^こと^で日^{にっ}々^{じつ}の充^{きん}実^{べん}度^どが^きま^り、勤^{いっ}勉^{しやう}に^きん^{べん}は^たら^く一^{いっ}生^{しょう}が^きま^り、健^{けん}康^{こう}維^い持^じによ^つつて一^{いっ}家^かの行^{すえ}く^末が^きま^ると^いう意^い味^み合^あい^にな^りま^す。

由^ゆ来^{らい}を知^しると、目^{もく}標^{ひょう}を立^たてて^{じっ}行^{こう}して^いくこ^とが、自^じ立^{りつ}につ^なが^り、自^じ分^{ぶん}の^{じん}生^{せい}を^{けい}成^{せい}して^いくこ^とに^なる^のだ^とい^うこ^とが^よく^わか^りま^す。

新^{しん}年^{ねん}が^あた^らけ、新^あた^らしい^き気^も持^ちで^あた^らしい^{もく}標^{ひょう}の^{もと}元^{ねん}、2025年^{ねん}を^{ゆう}意^い義^ぎな^もの^にす^るた^めに、目^{もく}標^{ひょう}を^しっ^かり^と立^たて^てみ^まし^{ょう}。

家族の一員として

冬休みには、家族の一員として、子どもたちにもお手伝いをさせてあげてください。忙しい年の瀬に、「助かる」と思う一方で、「自分がやった方が早い」と感じることもあるでしょう。しかし、お手伝いには、家族の一員としての責任感が芽生える以外にも、たくさんのメリットがあります。子どもの健やかな成長のためにも、是非ともお試しください。

お手伝いのメリット

- 1 自己肯定感が育まれる
家族に「ありがとう」と認められることで、家族での自分の価値を感じることができます。
- 2 考える力が身につく
同じお手伝いをしているうちに、より手際よくするよう考えたり、工夫したりします。
- 3 生活スキルが身につく
生きていく上での、生活のためのスキルが身につきます。手伝いの頻度が高いほど、コミュニケーション、礼儀・マナー、健康管理などのスキルが高くなるという調査結果もあります。
- 4 親子のコミュニケーションが深まる
子どもの生活の中心は家庭であり、そこで家族の愛情を感じることができます。

授業に臨むための土台づくり～「聴く」編～

聴く力は、授業のための土台に収まらず、コミュニケーションをとる際の第一歩です。相手の話をしっかり聴くことにより、話している相手に安心感を与え、信頼関係を築いていけるからです。今回は、基本的な部分に触れ、家庭でできることを紹介したいと思います。

授業ではそこまで求めませんが、ノンバーバルコミュニケーションと呼ばれる、相槌やアイコンタクトを取るといった言語以外のコミュニケーションはとても重要です。相手の目を見ることで相手に聴いているということを伝えられますし、姿勢は少し身体を前のめりにすることで相手の話を遮ることなく話を聴いているという印象を与えることができます。逆に、頬杖を突きながら聴いたり、貧乏ゆすりなどをしたりするなどの態度は相手に不快感を与えてしまいます。

家庭でこのノンバーバルコミュニケーション力を高めるために大切なことは、日々の生活の中で話し手である家族がこれを意識して話しかけをすることです。隣の部屋や遠くから子どもの顔を見ないで話しかけていることはありませんか？

子どもへの伝え方の基本は、「子どものそばに近づいて」「子どもと目を合わせて」「穏やかに落ち着いて」「何をどうするのか具体的に」です。しっかり聴けたように見えたら、「うなづいて上手に聴けたね」とほめてあげてください。

日々の生活の中で毎回このように話しかけることは現実的ではないかもしれませんが、したがって、本当にわかってほしい、伝えたい内容の時にだけでも上記の伝え方を心がけていただくと、子どものノンバーバルコミュニケーション力は高まっていきます。ぜひ実践してみてください。